理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1

理科教師の取り組みに望む

印教研理科研究部長　根郷中学校長　土井　仁

理科離れ、学力の低下が云々されています。対策を講じない限り理科の学力がさらに低下する心配があります。自然科学離れを憂いる声を受け、自然や科学を扱う番組が増えています。各種教育機関も施設の充実と科学催し物を増やしています。理科の教師は、学力の低下や理科離れの原因、現状を分析し、解決に具体的な方策を持って取り組む必要があります。

理科離れや学力低下は、子どもから自然や科学が遠のいていることが最大の原因です。子どもの生活から自然体験や物作り、科学遊びの楽しみが減少しています学校や家庭での学習時間の減少も低下の原因です。科学や技術の高度化や進行の早さも理科離れの一因です。これらのことを念頭に、理科教師の取り組みを提案します。

◎科学への啓蒙を図る。

・科学の恩恵や人類や地球の未来に科学の一層の進展が必要なこと、科学者や研究者の仕事とその魅力、理科を学ぶ楽しさ等の話をする。

◎家庭学習を促す。

・授業を通し、生徒一人一人との人間的関係づくりを積極的に行い向上心を揺さぶる。

・学習課題（宿題、調べ学習）を与え学習に取り組ませる。

◎授業外での支援を行う。

・理科室にいる時間を多くし、子どもを理科室に引きつける。

・魅力ある理科室経営（VTRやCPが自由に活用できる環境整備掲示物、展示物等の工夫）を行う。

・博物館、公民館などが実施する野外観察や実習、実験講座など催し物を紹介したり、子ども達と参加する。テレビの科学番組を紹介し視聴を促す。子どもに科学をわかりやすく解説する。

現状を打破するには、各教師の授業の充実はもちろんですが子ども達の科学心を揺さぶり、学習に追い込むプラスαの取り組み、小中学校の理科教師の共同研究など交流が必要です。

平成十三年度　事業計画

・五月十五日　印教研　理科研究部総会（成田小）

・六月二十七日　研究員集会（成田小）

＊夏休み中　理科実技研修会、現場研修会（各部会単位で実施）

・九月二十五～二十八日　郡理科作品展（成田小）
審査　二十五日
公開展示二十六日～二十八日
印教研集会（成田小）

＊理研会報の発行　二百九十一号～

平成十三年度　理科研究部役員一覧

◎理科研究部長
・土井　仁（根郷中）

◎理科研究副部長
・吉井　猛彦（佐倉小）
・森　成雄（四街道小）

◎各部会理科研究部長
＊一部会部長
・梅里之朗（大室台小）
＊二部会部長
・飯田隆雄（根木名小）
＊三部会部長
・片瀬　実（小林中）
＊四部会部長
・下畦能正（交進小）
＊五部会部長
・角井一郎（四街道北中）

◎理事
一部会
・吉井猛彦（佐倉小）
・土井　仁（根郷中）
・小山　治（井野小）
・木川　香（下志津小）
・加藤弘明（上志津中）
・齊藤政勝（下志津小）
・森本敏彦（根郷小）
・大野尊史（寺崎小）
・杉山栄一（佐倉東中）
・松橋和彦（臼井西中）
・梅里之朗（大室台小）

二部会
・徳田　進（富里小）
・佐藤久司（根木名小）
・古谷　薫（安食台小）
・飯田隆雄（根木名小）
・林田孝二（富里中）
・武井正己（中台小）

三部会
・関口勝義（白井一小）
・久本邦夫（平賀小）
・石田政光（滝野小）
・佐藤光廣（永治小）
・宮本久男（内野小）
・阿波寄守（草深小）
・河邊久男（南山小）
・伊藤久男（木刈小）
・佐久間保男（高花小）
・松田治久（七次台中）
・片瀬　実（小林中）
・鈴木　宏（原山中）
・佐々木　猛（木刈中）

四部会
・京相光徳（実住小）
・小林　茂（八街南中）
・深山民夫（朝陽小）
・平野　久（八街中）
・相田義則（八街中央中）
・大坊孝志（八街南中）
・三村宏治（八街中央中）
・下畦能正（交進小）

五部会
・荒木昭夫（旭小）
・間宮哲人（吉岡小）
・森　成雄（四街道小）
・角井一郎（四街道北中）
・清水龍彦（四街道北中）

◎幹事
・佐藤由美子（成田小）
・麻生辰浩（臼井中）

平成十三年度　印教研理科研究部　研究テーマ

《研究主題》

子どもたちが興味を持ち、主体的に参加する理科学習は、どのようにすればよいか。

《主題設定の理由》

身のまわりにはまだまだ豊富な自然があり、自然現象にあふれている。生活の中にも子どもたちの科学的興味をそそる事物・現象はたくさんある。素朴な疑問、興味・関心から科学の芽が生まれ、課題解決の学習を通し科学の心が育つ。中学理科の目標は、自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察実験などを行い科学的に調べる能力と態度を育てること、自然の事物・現象についての理解を深め科学的な見方や考え方を養うことにある。

子どもたちに科学的興味を持たせること、目的意識をもって課題を自力解決させること、解決の喜びを味わわせることが基礎・基本の定着、科学の方法の習得につながり、さらに生きる力となる。このことを念頭に、教材の開発・配列、指導法、指導場面等の研究を深めていきたい。

編集後記

理研会報第二百九十一号をお届けいたします。今回は理科研究部の役員について掲載致しました。

投稿等につきましては、各部会部長にお尋ね下さい。

（印教研理科研究部事務局）